



# 鶴の便り 鶴の便り

報資料館の里鶴夕

平成27年3月20日

第51号

発行 夕鶴の里

TEL 47-5800

平成二十六年年度

## 事業終了!

夕鶴の里の事業には、多くの方々のご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

平成二十六年年度の主な事業並びに関連事業の開催日、参加人数は次のとおりでした。

◇蚕の飼育事業(まゆの里事業)

6月10日(火)～30日(月)21日間

◇第十五回「語り部養成講座」

6月～7月(8回開催)

(小学生10名、大人8名受講)

◇第十二回民話の「語り駅伝」

7月6日(日) 71名参加

◇昔のあそび体験

5月・7月・9月・11月・1月

合計26名参加

◇社会人力育成山形講座

5月～7月の週末4日間

(山形大学・東北公益文科大学)

東北文教大学の学生5名)

◇染め織り体験学習事業 (まゆの里事業)

7月～10月(5回) 30名受講

◇紙芝居づくり講習会

(山形ふるさと塾形成事業)

9月～11月(3回) 17名受講

◇第十五回「民話まつり」

10月5日(日)

ゲスト：菅原正朝氏(鶴岡市)

80名参加

◇第十六回「子どもまつり」

10月12日(日) 88名参加

(内容：Laハラトミ太鼓の公演・

オリジナルうちわ作り)

◇だんご下げ (友の会事業)

2月15日(日) 30名参加

◇『南陽のシルクの歴史を訪ねて』

製作事業 (まゆの里事業)

10月1日～3月31日

◇第五回

「おきたま語りフェスティバル」

6月22日(日)

(会場：白鷹町文化交流センターあゆくむ)

150名参加

◇ふるさと講座

・第一回 6月28日(土)

(会場)夕鶴の里

大友義助氏 17名参加

・第二回 8月3日(土)

(会場)夕鶴の里

佐野賢治氏 29名参加

・第三回 9月20日(土)

(会場)結城豊太郎記念館

秋田 博氏 28名参加

・第四回 10月18日(土)

(会場)結城豊太郎記念館

多勢久美子氏 37名参加

◇「あゝ野麦峠」上映会&シルク

展示会二〇一四 in なんよう

会場：交流プラザ蔵楽

(上映前語り2名出演)

民話会ゆうづる 菅野敏子氏

〃 白岩けい子氏

◇第三回南陽こども芸術祭への

参加

11月16日(日)

会場：南陽市民会館

「夕鶴っ子の会」5名出演

◇置賜こども芸術祭二〇一四への

参加

11月24日(月・祝)

会場：川西町フレンドリープラザ

「夕鶴っ子の会」5名出演

平成二十七年年度も、より良い事業を展開していきますので、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

## 「小正月の行事」

# 「だんご下げ」

だんご下げは、小正月に餅を食べてだんごを作り、「みず木」にさし、「ふなせんべい」をつり下げて飾り、豊作を祈る行事です。

夕鶴の里でも、二月十五日(日)、友の会主催(渡邊記美子会長)で「だんご下げ」を行いました。

始めに、渡邊会長の開会の挨拶があり、だんご下げの意味などを聞き、早速、参加した子ども達は、つきたてのお餅を伸ばし、小さく切り、だんごをつくりました。その後、鯛の形のふなせんべいや、紙で作った小判やひょうたんなどを飾りつけ、あつという間に華やかなだんごの木になりました。

最後に納豆餅が振舞われ、子どもたちは、「初めてやってすごく楽しかった!」「良い思い出になった」などと大喜びでした。



# 千羽鶴が新しくなりました！！

この度、民話会ゆうづるの皆さんのご協力により、「千羽鶴」が新しくなりました。鶴を一羽一羽丁寧に折りあげ、糸でつないだ鶴は、語り部の館の階段のところに下げられ、だんごの木と共に、より一層華やかになりました。



## 漆山地区 地名伝説集

### 〈山の神様〉

四ツ谷から須刈田へ行く途中に、古い昔の旧道があんべ。前はこの道だけだったなよ。その古い道の中頃に、山の神様が祀られてあんのよ。

この神様、いつの頃よりあったのかは分かんねげんど、石の鳥居と石造りの小さな祠があって、前の方には、石畳が敷かれていて、参道のようになっているのよ。

言い伝えによると、この神様は女子の神様で、あんまりええ女子でほんねがったなど。そのうえ、とつてもりんきもち(嫉妬深い)でえやつたなど。それで、おんなのひとはお参りしても悪がったなど。特に、若い女子と二人で山へ行ったときなどは、神様あごっしやくので(怒る)決して二人で一緒に参りさんにえなだ。

昔は、山仕事や草刈などに行ぐ時も、この前は馬に乗ったまま通つては罰が当たると、馬を降りて通らなければならなかったほど、偉い神様でえやつたなど。

この神様のお祭りは、旧暦の二月十七日で、農家の若い衆や、山仕事をしている人は、十六の夜にヌサという物を作つてお神木の大きい杉の木に下げて、お参りして来たもんだ。

ヌサっていうのはな、しめかざりのような物で、麻の糸、干し魚、黒い炭などを付けて作つたもんだ。

そのヌサを下げた杉の木は、根っこがゴラ(洞)になつていて、五、六人も入れるほど大きい杉の木だつたんだけど。ザーと前に焚火の不始末で、燃えてすまうて、今は切り株だけ残つていんなよ。

この山の神は春になつても、里さ降りなかつたようで、田の作神様になつた話はないようだなつす。

毎月の一日には神様あ、自分

の受け持ちの山の木を数えるそうで、その日には山さ行ぐど間違わつちえ切られるときあんのので、山さ入つて悪かつたなど。そして、向かい側の北谷と言う山には神様のお庭松といわれる、ホーキ松がいつぱいあつてな、その松を切ると罰が当たると、誰も切らねがつたんだけど。

いつのまにか無くなつて、一本だけの残つているなよ。また、山へ行って鉈とか無くしたときなどは、この神様さ行つて、ズボンを下げて男の大事などところを見せながら参りすると、すぐ見つかつたそう。

※家小屋話に語られていることによれば、奉納するヌサとは、男性の物をあらわしたもので、麻糸は毛深さを、炭は黒さを、干し魚は生臭さを表したものと云われています。干し魚のオコゼと言う魚は非常に変わつていて、神様は、自分より醜い姿のものがこの世の中には、居たんだと安心するのだそう。

家で祭っているなぜか勝手口の軒下にあつて、神棚は無く、お供えの餅も男の人だけが手をかけ、女は手を触れなかつた、よほど嫉妬深い神様ではなかつたんだろうか。

地名伝説担当編集  
おりはたの里づくり推進会議



## 夕鶴の里(貸館)

### 使用についてのお願い

- ◇使用の際は事前に夕鶴の里に使用申請書を提出してください。
- (鍵の施錠の仕方をしっかりと確認ください)
- ◇電気・冷暖房は必ず消してください。
- ※最近、電気、冷暖房の消し忘れが非常に増えております。
- ◇ご注意ください！！
- ◇調理室の水道を利用した際は、必ず水抜きを行ってください。(凍結防止)
- ◇使用時に出たゴミは、各自持ち帰って下さい。
- ◇使用後は必ず日誌に記入してください。
- ◇使用後の施錠はしっかりと行ってください。

